

学位論文抄録

臨床医学教育における統合的トレーニングプログラムの有用性と課題
—シミュレーション医学教育を応用した採血トレーニングプログラム開発と
実践を通して—

(Effectiveness and problem of integrated training program in the clinical medical
education -through the development and practice of phlebotomy training
program applied by simulation-based medical education-)

谷 口 純 一

指導教員

木川和彦 前教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻 総合診療科学

紹介教員

竹屋 元裕 教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻 細胞病理学

学位論文抄録

【目的】近年の臨床医学教育の改革の中で、医療に関する社会的要請と新しい教育理論や技法の観点から、学習の主題として医療安全と、non-technical skills のトレーニング、及び技能的学習としてシミュレーションを応用した学習等が注目されている。今回、シミュレーションを応用した「採血手技」のトレーニングプログラムの開発とその実施を通して、上記を統合した効率的な学習を目指し、その効果と問題点、更にこれからの医学教育に求められる様々な課題と今後の発展的応用に関して明らかにしようとした。

【方法】新入職の研修医43名に対し、オリエンテーションの実習プログラムの一環として統合的な採血シミュレーショントレーニングプログラムを開発し、それを実施した。シミュレータに対しての採血手技、事例対応のロールプレイ及びそれらのビデオによる振り返り、参加者同士の採血手技を行い、終了度参加者に対し半構造化アンケート調査を実施し、それを解析した。また、研修開始6ヶ月後の追跡のアンケート調査を試みた。また、プログラムを開発した教員らにより侵襲的手技のシミュレーション学習に潜在する問題に関して意見を抽出した。

【結果】参加者は学習プログラムの有用性には総じて満足度が高かった。また、自身が患者役として採血の侵襲的手技を受ける事に関しては否定的では無く、むしろ患者体験の有用性を感じていた。6ヶ月後の追跡調査では回答率が低く、限定的な結果であったが、トレーニングプログラムの効果が認められたものの、心理的な部分での効果は尚不十分であった。教員からの意見としては、侵襲的な手技のトレーニングはシミュレーションの有効性とその限界、実際の患者に対して実施する前の段階として、学習者が患者役として侵襲的な行為を受ける事に議論の余地がある事が指摘された。

【考察】臨床医学教育において、シミュレーション教育の有用性が明らかになったが、特に、そのプログラムを Instructional Design を意識し統合的にデザインする事が重要で、侵襲的な手技のトレーニングとして安全の観点から non-technical skills のトレーニングを組込む事が必要である。侵襲的な手技のトレーニングを実施する際にシミュレーションの限界を考慮し、学習者のニーズ及び安全にも配慮する事が今後も求められる。また、トレーニングの有効性を更に明らかにして行く事を目指していく必要がある。

【結語】臨床医学教育において、シミュレーションを応用した統合的なトレーニングプログラムの有用性が確認でき、更なる開発の向上が望まれる。